

共生社会の実現に向けて vol. 8

◆アンコンシャス・バイアス

アンコンシャス・バイアスとは、自分自身は気付いていない「ものの見方や捉え方のゆがみや偏り」のことです。

アンコンシャス・バイアスは、その人の過去の経験や見聞きしたことにより培われるもので、自分自身ではゆがみや偏りを認識しにくい「無意識の偏見」と呼ばれ、誰にでもあります。

例えば、「性別、世代、学歴、障がい、国籍、宗教などの属性で相手を見ることがある」、「『親が単身赴任中です』と聞くと、まずは父親を思い浮かべる」、「性別で任せる仕事や役割を決めることがある」、「男性から育児や介護休暇の申請があると、『奥さんは？』と思う」、「子育て中の女性に、転職を伴う仕事の打診はしないほうがいいと思う」などです。1つひと

つは悪いことではない場合もありますが、状況によっては、相手を傷つけたり、モチベーションを下げたり、ハラスメントとなることがあります。

こうした無意識の偏見、偏った思い込みによる直感的な思考による言動は、ジェンダー平等や多様性を包摂する共生社会の実現を妨げている要因の1つとされており、企業活動にもマイナスとなるため、アンコンシャス・バイアス研修を導入する企業が増えています。

アンコンシャス・バイアスを分類すると200以上にもなるといわれていますが、次回以降、代表的な事例を随時、紹介していきます。

問合せ先 役場企画課企画調整係（内線213）

10 人や国の不平等をなくそう



▲SDGsゴール10
アイコン